

5月2日(火)
快晴・風あり起床3:00 御池発 4:20 ~ 俎^山 7:50 ~ 御池 9:00 ⇒ 入浴 ⇒ 御殿場 20:00

参加者

後藤隆徳	53	標高差少なく物足りない
加藤秀子	51	急傾斜にスリル有り.

体力・技術

③

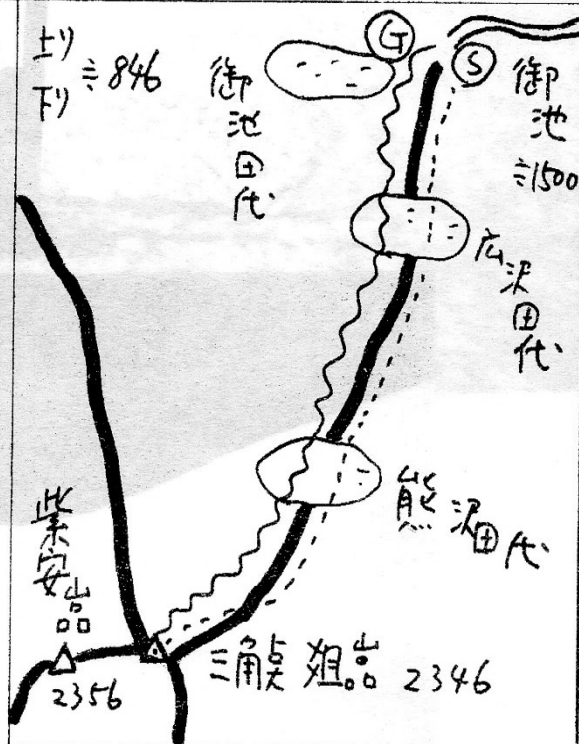
展望

⑥

第 東北山スキーツアー最終日に相応しく快晴だった。
五 少し林道を歩き右手のブナ森に取りつく。雪は締まり
日 歩き易い。広沢田代の登りは急で手強い。スキーの跡
目 が多いので以前に沢山入っている様子。熊沢田代の登
りも急で大変。朝モヤが一面に広がり幻想的だ。登り
切ると目の前に大きな燧が広がる。早くも左手からグング
ンと雲が流れる。頂上直下の有名な一枚バーンが見える。
あそこを滑ると思うとゾクゾクする。

熊沢田代から一旦下り再び登る。連日の山行のためか、
やや疲れを感じる。加トーも遅れ気味。バーンを登り切り
山稜に達し、一気に三角点のある俎^山 (まないたぐら) 頂
上に達する。鳥海、月山と違い誰もいない静かな頂だった。下からも今のところ誰も来ない。
燧は双耳峰で隣の紫安^山 (しばやすぐら) の方が10m高い。しかし、雲がガンガン流れきて
ガスとうまくないので早く下る事にした。

此处は頂から直に滑降できる素晴らしい山だ。やや左にトラバース気味に、一枚バーンを攻
める。いう事はない。振り返ると加トーはなかなか良いフォームで滑っていた。青空が眩しい。
くされ雪に足をとられ、急な樹林帯は横滑りをまじえこなす。日当たりの良いブナの巨木森で
ビールをいただき、今日のツアーを締めた。



加藤ひと言

出だしから樹林帯の急登が始まり、CLについて行くのがやっと・・・と言う
より遅れ気味。板とシールの間に雪が団子のようにつき、際どいトラバースは冷や汗を流しな
がら登行する。少しでもバランスを崩したら一貫の終わり。止まる事を知らず、落ちていくだ
けだ。そういう意味では一番厳しい登りの山だった。頂上から、軽やかに滑るCLの後を追っ
ながら、それでもついて行ける事にグ〜イ満足し、山スキーの醍醐味を充分堪能したツアーは
終わった。春山スキーは雪が湿って重く、登行もシールが氷分を含み、足に鉛が着いたよう
とても辛い。其れでも頂上を極めて大自然の懐に抱かれながら滑る時、一切を忘れ自分が風
になったような鳥になったような気分さえしてしまう。そんな感覚を存分に味わえる山スキーの
魅力にとりつかれて丸4年。今にパッパッとジャンプターンが出来るまで技術を磨くぞオ〜。